

再任用・会計年度任用職員部ニュース

No. 354
2022.10.12

東京都公立学校教職員組合（東京教組）
再任用・会計年度任用職員部
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 2F
TEL. 03-5276-1311 FAX. 03-5276-1312

非常勤教員の公募選考に論文 1600 字は必要なのか

10月3日、東京都教育委員会のHPで、「令和4（2022）年度東京都公立学校日勤講師（非常勤教員）採用候補者選考実施要綱」が発表されました。2020年度より導入された会計年度任用職員制度により、非常勤教員の選考は「公募」と「公募によらない再度任用」の2通りに分けられました。

公募選考の対象者は、初めて非常勤教員を希望する方と任用5年目の非常勤教員の方で、現在東京都公立学校に勤務している方の他、他県や私立学校の教職員、退職後ブランクがある方なども申し込みます。年齢制限もありません。公募によらない再度任用の対象者は、現在非常勤教員で、任用1年目から4年目までの方です。両方とも2023年4月1日に有効な教員免許を持っていることが条件です。

今年も公募選考対象者には「論文1600字」の作成が課せられました。論文の課題は、10月12日（水）に都教委HPで発表され、提出方法は郵送のみ、期限は10月17日（月）【消印有効】となっています。都教委は、「この論文により適性を判定します」としていますが、提出した論文を誰がどのように評価するのかなど、選考の過程や基準が全く不明で、論文選考での不合格者は、選考方法に対する不信感を高めています。なお、このニュースが部員の皆さんに届くのは、申込期限後となってしまいますが、制度の概要を理解していただくためにお知らせいたします。

2020年～2022年の公募選考論文の課題は以下のとおりです。

<2020年>

次の問題について、合計1,600字程度で論じなさい。

「あなたがこれまでに培った知識経験を踏まえ、学校において解決すべき課題を1点設定し、その課題の解決に向けての具体的な取組を、非常勤教員の職務内容に基づいて2点論じなさい。ただし、取組のうち1点は若手教員育成支援の観点から論じること。」

<2021年>（2020年と下線部分のみ変わっています）

ただし、取組のうち1点は、校務分掌業務の補助及び支援の観点から論じること

<2022年>（今年：2021年と下線部分のみ変わっています）

ただし、取り組みのうち1点は個別に指導や配慮が必要な児童・生徒への対応を通じた若手教員の育成支援の観点から論じること。

非常勤教員（日勤講師）は、再任用とともに定年後も働く教員の選択肢として、2008年に都教委が設けた制度です。学校にとっては、定数外の教員が増え、定年退職以外の教員にとっても、多様な働き方の保障になります。公募を名目に「論文1600字」というハードルを設定することは、希望者の抑制につながりかねず許されません。

民主主義破壊の「安倍国葬」を許さない！ 国会前大集会に参加

元部長 林 健

9月27日、まさに日本武道館での「国葬儀」開始と同時刻に、国会正門前周辺での「国葬反対大行動」が行われ参加してきました。平日とあって、現職組合員の参加は難しかったものの、退職者を中心に多くの仲間が参加していました。

集会開始とともに、武道館に向かって「国葬反対！」「弔意の強制許さない！」「国葬で税金使うな！」「安倍政治を美化するな！」「カルト教義の改憲反対」などのコールを行いました。

主催者挨拶で実行委員会の菱山奈帆子さんは、「いま武道館で行われていることは自民党による自民党のお葬式だ。静岡では台風により断水が続き市民が困っているのに、警察と自衛隊を大量動員して国民生活そっちのけで国葬を行っている。今こそ、民主主義を取り戻し岸田政権・安倍政治の終わりの始まりにしよう」と力強く訴えました。



立憲野党からは、社民党福島瑞穂さん、立憲民主党近藤昭一さん、共産党志位和夫さん、れいわ新撰組くしぶち万里さんが連帯のあいさつを述べました。また、会派沖縄の風の伊波洋一さんから「参議院議員選挙と県知事選挙で示された沖縄の民意に基づき、辺野古新基地建設中止を政府に求めていく」との強い決意に満ちたメッセージが響きました。

市民・団体からの発言では、法政大学前総長の田中裕子さんが印象に残りました。「今、憲法が言っていることの重要性を感じている。それは、民主主義と人権は不断の努力なしには実現できないということです。私たちは一層不断の努力をしなければならない、そういう時代になった。国葬は大日本帝国憲法の遺産であり遺物です。国葬は天皇が自分の家臣、つまり家来である政治家を送るために行ってきたもの。それを今この時代に行うというのは、まず国会の軽視であり、すなわち国民の無視です。民主主義の破壊です。ファシズムへの道はもう始まっています。私たちは、無視されたということを常に心にとめておかななくてはならない。これから国会で起こることを、国会が、国民がどのように無視されるのかをしっかりとみて、闘っていかなくてはなりません」と一言一言かみしめるように語られました。

劇作家の坂手洋二さんは「かつて、大喪の礼の時自分たち芸能関係者は、自粛しろと言われた。それを拒否してあちこちでイベントを強行した。慣れてしまうことをやめよう。国葬に16億円で怒っている場合ではない。防衛費を2倍にしようということに怒るべきだ。ロシアで一般人が兵隊にとられている、これは他人ごとではない」と、怒りを込めて語られました。

カンパアピールの後にステージには、フォークシンガーの小室等さんが上がり、「死んだ男の残したものは」などメッセージあふれた歌とともに「かつての戦争は、一般人も加担していた。自分は、戦争に加担した一人にはなりたくないからここに来た」と話されました。

また、女性問題・ミャンマーの軍事政権を国葬に招待した問題についての発言がありました。

司会者から今回の行動には、約1万5000人が参加したことが報告され、行動提起で、11月3日の「憲法集会」に向けて、今後の闘いを確認するとともに、再度の「国葬反対！」コールを行って行動を終わりました。

<おわびと訂正>前号(NO.353)の3ページの給特法の施行年月日は、正しくは、1972(昭和47年)1月1日でした。おわびして訂正させていただきます。

